

[平成 19 年度 MISA 人材育成委員会資料]

平成 19 年度実施

新人研修（認定職業訓練）に対する受講者の感想

（受講企業および受講者ヒアリング調査結果報告）

（公開版）

平成 19 年 11 月

社団法人宮城県情報サービス産業協会 人材育成委員会

新人研修検討部会

1. ヒアリング結果の全体総括と来年度以降への示唆

全 39 日・受講料 380,000 円

	項目	受講企業の意見等の主要点	運営側総括及び想定される対策
1	全般に関して	<ul style="list-style-type: none"> ・全般としての印象は良好である。 ・日数、費用などの制約条件の中では健闘していると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ MISA 企業合同訓練は、新人同士の横のつながりの面でも効果が高く、協会事業として果たす役割も大きい。 ・ 今年度からの新規受講企業も、合同訓練によるコミュニケーション面での鍛練の評価は非常に高かった。 ・ 技術系コースは更なるブラッシュアップが必要
2	ビジネス基盤養成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本コースはほぼ確立している（完成度 100%）といえる。昨年度の改善点も反映され、評価が高かった。 ・ 各社の期待も極めて高く、今後重要な役割となるコースと位置づけられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受講企業の期待も高く、次年度も引き続き実施していくべきと思われる。 ・ ヒアリング企業から要望の出た研修時間の 1 時間延長に関しては、講師謝金との兼ね合いがあるため、事務方サイドで検討したい。 (例えば 5 千円/人値上げして 17:30 までにするなどの対応策はある)
3	IT 技術基盤	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の「開発の流れの体験」や「コミュニケーション」「技術の網羅性」などの部分の評価が高い反面、<u>プログラム開発実務の基本的な内容の定着に関する不満（例外処理、バグ・・・）も目立った。</u> ・ 講師に関しては派遣担当者、受講生共に満足度は高かった。 ・ 昨年度ヒアリングを到達度テストの導入（課題演習とは別にプログラミングなどの実地テスト）などを行ったものの、運営事務局（NAVIS）の対応の遅さに対する不満なども一部あった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技術的に基盤技術が網羅されていること、チームワークでの演習との両立など基本的なカリキュラムの流れは評価されている。 ・ 更なる品質意識、プログラム開発上の用語や基本動作が定着できるようなカリキュラムに小変更が必要 →C を内容から取り除き、Java にしてプログラム品質と定着を行う基礎コースにすることも選択肢に入る。 ※カリキュラム内容（要素技術の盛り込方）に関して、メンバーで検討すべき事項①

4	オブジェクト指向開発	<ul style="list-style-type: none"> 各社での期待である、「開発手順の体験とそれによる実務やOJTへのスムーズな移行」という目的は十分果たせた。 <u>ボリュームが多く消化しきれない、設計の内容は新人には難しすぎる、などの意見</u>が複数社で指摘された。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務プロジェクトの模擬体験としての役割や期待が強いことから、引き続きPBL（プロジェクトベースドラーニング）的研修とすべきである。 →UML の設計などの簡素化、Java プログラミング基礎の「IT 技術基盤」コースへの盛り込みなどを検討したい。 <p>※上流工程の内容をどこまで入れるかに関して、メンバーで検討すべき事項②</p>
5	助成金	<ul style="list-style-type: none"> キャリア形成促進助成金の活用の周知 	<ul style="list-style-type: none"> 助成金活用の周知は進んだといえる。 申請事務負担の多さは各社が指摘しているが、雇用能力開発機構との関係のため、これはMISAではどうしようもなく、致し方ないと思われる。

2. ヒアリング結果（生データ）

ヒアリング実施体制：

MISA 人材育成委員会（新人研修検討メンバー）

大森（ビッツ）、鈴木（ジャパンエンジニアーズ）、安住（テクノ・マインド）

庄子（NAViS）、荒井（アート・システム）

MISA 事務局 原田、若生

実施期間：2007年8月29日～9月12日の期間における訪問ヒアリング調査

※対象全16社（受講者総計54名）中、人材・技術委員会メンバー企業や過去にヒアリング実績のある企業を除く10社に打診を行い、ヒアリングメンバーとの都合のとれた5社を訪問

（平成19年度からの新規受講企業と全3コース受講企業を優先的に抽出）

調査対象：代表・役員クラス、研修担当者クラス、受講者の3者（会社により異なる）

対象企業 A

日時：2007年9月10日（月） 10：00～11：00

会場：同社会議室

今年度受講生数：1名（全3コース・応用コース）

出席者（敬称略）：

- ・対象企業 A：取締役、事業部副部長（研修担当者）、受講者 各1名
- ・MISA：鈴木（ジャパンエンジニアーズ）、庄子（NAViS）、原田（事務局）

1. 今年度実施訓練の評価に関して（研修担当者）

- ・参加の動機としては、NAViS 会場に近いということ、地元での研修ということである。東京に出す場合、旅費等も含めてかなりの費用がかかる。
- ・研修内容全体として、新人研修とはいえ実践を重視しているところが良い。特にチームを組んでソフトウェア開発を行うことにより、コミュニケーション能力や期限を守る意識などが鍛えられる。
- ・社内でも内容的にソフトウェア工学、プロジェクトマネジメント的な部分を期待しており、レビューの意味、マネジメント、品質管理、特に工程上出さなければならないバグ、などがあり、こうした面を鍛える研修としても適切であったと考える。
- ・PHP、SQL など数多く学んで応用実践ができたと思う。最初はつらかったようであるが、ライオン方式でいきなり東京の実践の場に出る場合、はいあがってこなければならない。現場はそれほど大変である。

2. 受講者の生の感想

- ・設計書などは各社まちまちであり理解していくのに大変である。こうしたものに対応できる成長をする上でも研修は有益であったと思う。
- ・研修で学んで現場で役立ったこととして、大きいのは SQL である。SQL は学生時代は触っていなかったもので、仕事での理解が大幅に早くなったと思う。

3. MISA 教育のあり方に関する意見等

- ・研修の発表会を見て、基本設計からテストまでの一連の流れに沿った実践向きの内容であることが良くわかった。単に言語だけの研修ではないので、非常に良いと思う。リーダを中心に作業分担を行い、基礎から実践までを学習できるものであると思う。
- ・当社では複数の人材を採用した場合、社内の OJT に入れるか、いったん研修に出すかは管理職が見極めしている。
- ・近年は人材採用には苦勞していると思う。今年度も 5 人位は採用したかったが、20 人～30 人位は応募してきたものの採用したいと思う人材を採用するのが困難であった。
- ・10 年位前は秋にノート PC を貸出してコンピュータの基礎から勉強させていたくらいであったが、現在、そういう意味での前提知識レベルは上がってきていると思う。4 月に入って研修を行い、小さいプロジェクトは新人にも任せることができるような感じである。

4. 来年度の計画など

- ・来年度の採用計画はすでにある。採用が困難になってきているが、採用予定である。
- ・ビジネス基盤コースは絶対必要であり、日程なども少なくしないでもらいたい。

5. その他懇談内容

- ・修正、追加などの作業項目は業界の悪しき習慣である。ユーザの役割を啓発していくことも MISA の役割ではないかと思われる。こうした改善こそが労働環境の向上にもつながるのではないか。情報セキュリティに関しても同様で、県（の情報産業振興室）なども含めて取り組みを行っていくべきではないか。
- ・地場企業の人材確保は困難になりつつあり、個別の地場企業が大学にアプローチしてもなかなか受け入れてくれない。MISA の役割としても出前企業の説明会など積極的に行っていくべきである。

対象企業 B

日 時：2007年9月11日（火） 10：00～11：00

会 場：同社会議室

今年度受講生数：3名（全3コース・基礎コース）

出席者（敬称略）：

- ・対象企業 B：総務部長（研修担当者）、受講者3名
- ・MISA：大森（ビッツ）、庄子（NAViS）、若生（事務局）

1. 今年度実施訓練の評価に関して（研修担当者）

- ・7日間のビジネスマナーに関しての実践度はもう一歩である。まだ十分に活かされているとは言い難いので、更に実践が必要である。
- ・来年度は事前に（入社と同時に）名刺を渡して、最初から（基本動作を）実践できる（環境を整える）ようにしたいと思う。
- ・IT技術基盤、オブジェクト指向開発コースに関しては、プレゼンテーション（発表会）の部分で、一部プログラムが動かなかったところがあった（→IT技術基盤の発表会）。講師からは「だから練習しておけばよかったのに」という旨があったが、もう少しサポートすべきである。その面での講師対応は多少まずかった面もあったのではと思う。

2. 受講者の生の感想

（受講者 A）

- ・現在担当は営業であるが、ビジネスマナーを実践する中で、特に志伯先生の研修は大変ためになっており、十分参考になるものである。あとは、メンタル面での研修（仕事に対する考え方など）がもっと充実していればなおよかった。
- ・皆であわせて受講する中で、達成度がまちまちなのが気になった。特に（プログラム初心者として）最初は不安だったか、（土曜日に特別開催した）補習で追いついていった感じであった。受講者のランク分けや達成度の相違はもう少し配慮して欲しかった。

（受講者 B）

- ・実践の場ではお客様あつての仕事である。研修の中でプログラミングの習得、というよりはチームでの開発を学習できたことは有益であったと思う。
- ・授業自体は懇切丁寧で楽しかったと思うが、まだ十分に実践できているとはいえない。プログラミングやVBなどを少しやっていたので、ペース自体は問題なかった。グループワークやコミュニケーション面はかなり勉強になったと思う。

（受講者 C）

- ・オブジェクト指向コースはドキュメント作成などがたくさんあったが、文書作成自体が

目的になってしまうことが多く、ボリュームをもう少し減らしてもいいと思う。

- 本当の意味での勉強はやはり現場に入ってからであると思う。品質などは、たとえば社内掲示板の作成でもテストの連続であって、こうしたものをユーザに押し付けるわけにはいかない。
- 研修では特にプログラミング演習では個人のレベルが違うので、私は例外処理などまでには手が回らなかったと思う。受講者個人の情報をもっと講師にフィードバックできる仕組みがあってもいいと思う。

3. 研修担当者との懇談

- 補助金（キャリア形成促進助成金）の手間ヒマがかなりかかるので、前もって補助金分を受講料に盛り込み、研修費用に加味できると本当はありがたい。費用的に安ければ、もっと長くして（スキルの）定着を狙ってもいいのではと思う。
- たとえば1か月のオプションで、プラス α があってそれが実務のキャリアとリンクするのであればいい。
- 受講者の立場ではどうか？
 - プラス α の部分は現状では会社で覚える方が良い。単純に時間だけ長ければいいというものではない（受講者）。
 - 学習した技術はまだ現在でも自分のものにはなっていないと思う。自分なりの達成度が重要で、研修では質問が的確にできるようになればいいと思う。2か月で概要を把握して、あとは自分のレベルにあった学習ができるといい。
- グループ学習では、講師と受講生の信頼関係がもっと緊密であっても良い。教科書をしっかり自分のものにさせ、何が足りないのかを把握できると良い。
- 研修に出している2か月間はそれこそ稼ぎのない時期であるが、目的意識を醸成する期間であるべきである。講師もその感覚を持ち、動機づけができるといい。
- 1日毎に講師がチェックを行い、理解しながら次に行く感じであるともう少し効果もあがると思う。講座での「ゆとり」の部分はキャリアパスを考える感じで。
- UML などに関しては、本当は他社との共通規格があって、それに基づく教育などができればもっと望ましいと思われる。

対象企業 C

日 時：2007年9月12日（水） 10：00～11：00

会 場：同社会議室

今年度受講生数：5名（全3コース/基礎コース3名、ビジネス基盤のみ2名）

出席者（敬称略）：

- ・対象企業 C：システム課長（研修担当者）、受講者3名
- ・MISA：安住（テクノ・マインド）、庄子（NAViS）、原田（事務局）

1. 今年度実施訓練の評価に関して（研修担当者）

- ・成果発表会を見学に行ったが、技術的にいえば高度な講義であったと思う。基礎の比重に関してはどのくらいなのか。業務に入ってから基本が足りていない印象があった（ドキュメント、コーディング、フローなど）。例えばソフトウェア開発での気づき、NESTなどがもっと鍛えられればよかった。
- ・成果発表会などロールプレイングできる場が充実し、段取りなどに関して習熟できたと思う。1年生にしては（プレゼンなど）かなりよかったという印象であった。
- ・今までポリテクセンターの新人研修に出していたが、内容が薄かったので、それよりは数段中身の濃い研修であったと思う。
- ・新人一般の動向であるが、社会人としての常識が年々足りないような印象がある。技術者以前の言葉遣い、マナーなどに関して特にそう思う。
- ・研修に関しては基本からのステップアップができれば良いと思う。研修後2～3か月の社内教育を経て、1年間で0.4人前くらいの計算で考えている。
- ・ITコースに関しては、未経験者ではあったが、技術よりもむしろ他社新人との話をしながらのプロジェクト体験が糧になると思う。
- ・当社は自治体関連の独自パッケージを有しているので、社内訓練は重要であるが、現場メンバーが教育に割ける時間は限られている。当社としてどのような訓練が自社訓練にマッチしているか模索中である中で、MISA訓練は技術系が厚そうだったので、今年度から派遣してみることにした。
- ・ビジネス基盤コースに関しては、電話応対、入社退社のあいさつなどアナログな部分で元気になってもらうのが当社としての狙いであった。
- ・IT技術系に関しては、フロー図、アルゴリズムなどのプログラム技術の基本を覚えることが当社としての狙いであった。

2. 研修に関連した懇談

- ・ MISA からの研修募集案内は十分な内容だったか？

→大きい文字ポイントで「これが主になっています」のようなものがあればなお良かったと思う。

- ・ 新人研修を半年見込んだとして、開始時期がずれるのはどうか？御社内教育とのタイミングのバランスはどうか？

→当社新人は地方出身であり、移動は難儀である。MISA 教育を優先し戻って来てから教育スケジュールを立てるようにすれば特に問題はない。

- ・ 営業は関東、仙台は開発拠点としての位置づけが主であるが、いずれにしても元気な人材が基本である。ただ、近年は採りたい人材が採れないのが実情である。

- ・ 新人を受ける部門側のフォローはどのようなものか？

→当社は独自パッケージを主力としているので、それを覚える上での製造部門に配属する。ただし今年度は 1 名だけ企画部門に最初から配属した。この配属は (MISA 研修での) 成果発表会の第一印象で選択した。

- ・ 研修中、新人には業務日誌を書かせていたが、これらは役職者に回覧していた。当社はアナログが好きなので、手書きで漢字のチェックなどを行いながら確認していた。

3. 来年度の研修への意見

- ・ ビジネス基盤コースはあと 3 日くらい、もっと長いくらいでも良い。

- ・ 技術系に関しては、中身の部分でオブジェクト指向に関する設計は新人には難し過ぎるのではないかと。分析設計に関するドキュメントはあらかじめ事例としてある程度講師から提示してしまい、中流以降の工程をしっかりとってもらう方がいい。

- ・ 例えばプログラムの単体テストでエラーなしで報告してしまうなどがあり、バグをあえて出すなどの内容ももっと充実できるといいのではないかと。

4. 受講者の生の感想

(受講者 A)

- ・ 研修コースを通して受けたのはよかったが、技術系では隣のクラスの浅野先生の内容 (応用コース) の方が中身が濃そうだったので、そちらもやりたかった気がする。

- ・ (IT 技術基盤コースでのプレゼン失敗に関して) 段取りがまずかったことが今でも悔しいと思う。

- ・ 一から全部教えてもらい、開発体験はできたと思う。

(受講者 B)

- ・言語はもっと基礎的なところからやっても良い。(C 言語などをやったが) 違う言語であってもかまわない。
- ・課題演習に関しては、提示された課題がどういうものなのかまず理解することから難しかったと思う。設計書で苦勞し時間も取られるので、もう少し言語に注力しても良いとは思った。

(受講者 C)

- ・班ごとに技術の差がありすぎて、全くプログラム経験のない人には少々きついかもれない。特にオブジェクト指向開発コースでは応用コースから来た人と一緒になるので、その際の技術の差は大きいと思う。
- ・講師自体は懇切丁寧で良かったと思う。
- ・社会人的なマナーに関してはスキルが全然なかったなので、一から教えてもらって大変ためになった。これらのスキルに関しては私生活にも応用できる。
- ・会社での研修後の実務では他の会社の人と仕事をすることもあり、社会人としての基本やルールをしっかりと学習できたことは大変よかった。
- ・研修の休憩時間などはメリハリがあってよかったと思う。

対象企業 D

日 時：2007年9月20日(木) 17:00~18:00

会 場：同社本社 応接室

今年度受講生数：2名(「ビジネス基盤養成」、「IT技術基盤」基礎)

※今年度からの受講

出席者(敬称略)：

- ・対象企業 D：取締役事業部長、研修受講者 1名
- ・MISA：鈴木(ジャパンエンジニアーズ)、庄子(NAVIS)

※今年度新人研修の派遣担当者役員の転勤のため、メモを取りまとめてもらった。以下はメモの転記を中心とした内容である。

1. 訓練全体の総括

<受講者派遣の動機、訓練全体の印象>

- ・ビジネス基盤養成研修が7日間で内容が充実していたこと(動機)
- ・企業人としての心構えに止まらずビジネス文書の書き方など、即実践できる内容であった。

- ・ I T 技術基盤の研修内容が当社の望む新入社員研修に適していたこと（動機）
- ・ 営業職及び S E 職で基礎知識のない新入社員に I T 技術基盤の基礎として研修内容が体系的で全体を網羅していた。
 - データベース、アルゴリズム、言語（V B 等）の開発基礎
 - TCP/IP 等ネットワーク構築基礎
- ・ 全体の印象として、システム提案から構築、運用にいたるまで必須条件となるコミュニケーション能力を身につけさせるには、研修全体の進め方が適していたと感じる。（グループ演習、フィードバック型、成果物発表、講師への適時質問など）

<よかった点、不満だった点>

- ・ 同業者の新入社員の集合研修であり、同年代で切磋琢磨できたことは良かったと思う。
- ・ IT 技術基盤研修についてはボリュームが多く、各項目で理解度が不足していた状態で次に進んだように感じる。

2. MISA 認定職業訓練（新人訓練）の将来的な発展方向、あり方

- ・ 仙台 IT トレーニングセンターの新入社員研修（仙台）や他団体の新入社員研修の研修内容を研究し、成果を出している研修内容やトレンドの組み入れを願う。
 - （→ ベストプラクティスの構築）
- ・ 各社の新人育成計画と教育実施内容の纏めと公開を行い、各社参加で研究する場の創設を願います。（→ 各社での新人育成の情報交流）
- ・ 入社半年から 1 年の間でフォロー研修を実施してはどうか。集合研修が難しいところもあると思うので、各社のフォロー研修のオブザーバがフォロー研修支援者として。
 - （→ 研修フォロー者の研修会あるいは情報交換会などを行ってもいいのではないか、という意味）
- ・ 到達目標に関しては、各社の参加した新入社員の退社を防止し（早期離職の防止）、次の MISA 研修への参加を確実にすることが到達目標になるのではと考えるので、前述のフォロー研修、応用基盤研修、専門研修を企画し参加目標を決めて取り組むべきと考える。
- ・ MISA 認定職業訓練の将来に期待すること
 - ITSS を反映した研修カリキュラムの充実
 - IT 技術を駆使して情報システムを提案する営業職に求められるスキルアップ研修の開催（提案力強化研修など）

3. 来年度に期待すること

- ・ 今年度参加実績から来年度内定者 4 名の受講を最優先で考えたいと思っている。12 月から 1 月にかけて別途社内で協議を行う。

- ・IT 技術基盤（今年度 17 日）日数については、理解度を補う必要を感じたことから、3 日前後の延長が必要と考える。

→17 日にこだわらず最終日を金曜日にしてもらえると都合良いという話があり。

4. その他

- ・受講料に関しては適切であると判断している。
- ・理解度を補う意味で、3 日前後の延長をしたうえで受講料据え置きであれば尚良い。
- ・キャリア形成助成金は活用している。ただし申請書等の一層の簡素化を願っている。
- ・GW 中の休講に関してはどちらでも良い。

→受講者の負担と気分転換を考えると休みにした方が良いという意見があり。

5. 受講者の生の声

- ・講師も丁寧で、運営対応や研修室の雰囲気も良く、勉強しやすかった。集中できた。他者（他社受講者）との交流もとてもよかった。
- ・私はもともと営業部門配属の予定だったため（もう一人の受講者は SE）基礎的な部分や全体の流れを理解できるのが目標であったが、全般に初心者にはちょっと講義のスピードが速かったと思う。
- ・研修自体は毎回楽しみであった。現場に入ってから経験できないことをいろいろ経験できたと思う。（営業という仕事柄）プレゼンテーションなどの機会も多いが、研修でやったことは有益であったと思う。

対象企業 E

日 時：2007 年 9 月 21 日（金） 10：00～11：30

会 場：同社会議室

今年度受講生数：3 名（全 3 コース受講・応用コース）

出席者（敬称略）：

- ・対象企業 E：代表取締役、マネジャー（研修派遣担当者）

受講者 2 名

- ・MISA：安住（テクノ・マインド）、庄子（NAViS）、若生（MISA 事務局）

1. 受講者の生の感想

<受講者 A>

- ・（プログラミングの技術はもともとあったが）学生時代に学ばなかった単体テスト、エラー処理など業務上必要なスキルを一通り学べたところがよかった。
- ・「コードインスペクション」「変更要求」など（研修を終えて）仕事に入ってから聞いた

ことのない言葉が結構出てきているので、こうした業務上必要な言葉をもっと学べればよかった。

<受講者B>

- ・ 訓練全体の印象は良かった。ビジネス基盤養成コースから 3 コースを受講したが、最初にディベート、提案などを学習し、その後で技術、そして業務の流れと続く流れは良かった。
- ・ 業界で働く上での専門用語に関しては、一通りは学習できたと思うが、ある程度基礎的なところを含めてもう少し学べればよかった。
- ・ オブジェクト指向コースに関しては、スケジュール的に無理があるように思う。クラスを2つに分けて実施したが、(講師が違うこともあり) 片方のクラスはコーディング重視で画面は良く出来ていて、片方のクラスは設計重視で設計書が良く出来ていた感じである。業務の流れと設計を両方合わせてしっかり学習できればよかったと思う。
- ・ UMLを書きながら学べたのはよかったが、(業務全体を体験するという視点では) 時間が足りなかったと思う。企画の段階で選択肢の中から双方のコースを選択できればよかったのではないか。

<質疑応答>

- ・ 学習したスキルの内容以外ではどうだったのか?
 - 技術は抜きにして、横のつながりが持てたのがよかった。(訓練の目的にも横のつながりというのがあったが) この目的はいいと思う。今でも当時の仲間とは連絡を取り合っている。
 - 大人数で集まることにより、情報交換もできて、競争相手にもなり、刺激にもなる。別の会社の受講生と一緒に演習を行うことにより、(業務上不可欠なコミュニケーションである) 伝達の仕方などが学習できたと思う。
- ・ 3つのコースにいろいろなスキルを持った人が入っていたと思うが、どう感じたか?
 - いろいろな人が入ってくるのはあまり問題ない。
 - 発表会でコケたのは失敗で、今でも悔しい。ただ、こうした研修(での失敗)のバックグラウンドがあって意識づけができると思う。業務に入ってから同じ失敗をしたのでは大変なことになるが、研修という場での失敗から学ぶことは大きい。
- ・ 期間はどうだったか?
 - ビジネス基盤コースは終了が早かったと思う。もっと時間延長しても良い。ITコースは17時半までだったので、会社には寄らず毎日直帰していた。会社には日報メールを送信していたが、(会社とのコミュニケーションはしっかり取れており) 会

社に来なかったという不安はなかった。

- ・研修の成果の活用に関してはどうか？研修を受けて何が自分の中で変わったか？
→やはりビジネスマナーの活用が大きい。挨拶などを含めオドオドしないで動けるのはよかった。
→仕事への姿勢が変わった。考え方、ものの見方を培ったのは大きい。（研修で業務を模擬体験することにより）同じ状況を見て感じ方が変わり、社会人の視点で見るという意識になった。
- ・研修を受けて「ゆとり」はあったか？
→本当にはっきり目標を持って受講すべきだと思う。その上で研修を受けるときは楽しく受けた方がよい。
→休み時間の取り方などは適切だったと思うが、オブジェクト指向コースは（内容が盛り沢山なので）スケジュールを改善した方がよい。

2. 訓練全体の感想（研修派遣担当者）

- ・（ビジネス基盤コースに関しては）新入社員には絶対必要であり、最低限この内容は受講させるべきと思う。
- ・技術系に関しては、業務に入る中で足りない面は会社内でサポートを行ったのが実情であり、もう少し必須事項をしっかりとやらしてもらった方がよい。
- ・技術系の訓練の率直な感想として、みんな中途半端であった印象がある。C言語なども言語をかじった程度で、社内でもう一回（必要な技術を）勉強させたのが実情である。
- ・コースとしてある程度の経験者向けのコースだったかどうか疑問である。
- ・当社として、言語はあまり限定しているわけではなく、一つの言語で基礎をしっかり身につければ応用が利くという考え方である。研修では本当の基礎が欠けていた印象がある。
- ・人数が多くレベルも様々なので難しい面もあるかと思うが、理解していない部分や思い込みをしている部分もあったような印象である。個々の理解の把握がもう少しあればよかった。

3. 訓練のあり方に関する懇談

- ・訓練に出すにあたっての当初の目標はどのようなものであったのか？
→新人研修であるからには、基礎的なものはしっかり習得して欲しいというところである。技術的に高度なものである必要はないと思う。
- ・本来は教育しなくとも使える人材を獲得できればいいが、ある意味教育の猶予期間とし

て仕方なく出している、ともいえる。

- 訓練のフェーズ毎にテストを挟まないと、到達レベルの見極めができない。グループ演習の利点は認めるが、グループの中で個人のレベルが隠れてしまうので、個人の見極めができる情報をフィードバックしてもらいたい。
- タイムリーな情報提供を望む。また、全般に連絡が遅く、運営の対応の遅さは改善すべきと思う。例えば（細かいことであるが）成果発表会に行かないと資料がもらえない、などもあり改善願いたい。

4. その他

- 言語仕様から説明するのであれば、時間も足りなくなるであろう。何の言語でもいいので、基礎をしっかり学べることに重点を置いてもらいたい。
- 訓練の目標レベルとしてどの程度までを考えているのか？
→適性の高い人材は即戦力まで行って欲しい。教わったことを定着させ、目標に相応しいもの、これができないとだめ、というところまでしっかり到達させたいと思う。
当社では事前に入社前の言語教育を行っているが、事前にある程度基礎的な面は教育できると良い。

<参考：2007年度カリキュラム>

社団法人宮城県情報サービス産業協会

訓練科名：ビジネス基盤養成Ⅰ（7日間）

日程		4月3日（火）	4月4日（水）	4月5日（木）	4月6日（金）
		ビジネスマナー	ビジネスマナー	ビジネススキル （文書・情報活用）	ビジネススキル （チームワーク）
日程	4月9日（月）	4月10日（火）	4月11日（水）		
	ビジネススキル （論理ディベート）	企画プレゼン （企画提案書作成）	企画プレゼン （プレゼンテーション）		

訓練科名：ビジネス基盤養成Ⅱ（7日間）

日程		4月3日（火）	4月4日（水）	4月5日（木）	4月6日（金）
		ビジネスマナー	ビジネスマナー	ビジネススキル （論理ディベート）	企画プレゼン （企画提案書作成）
日程	4月9日（月）	4月10日（火）	4月11日（水）		
	企画プレゼン （プレゼンテーション）	ビジネススキル （文書・情報活用）	ビジネススキル （チームワーク）		

行事：4月3日（火）開校式（9：15集合） 4月11日（水）受講者交流会
4月6日（金）ゲストセミナーⅠ（IT業界で働くこと）

訓練科名：IT技術基盤Ⅰ（基礎コース）（17日間）

日程				4月12日（木）	4月13日（金）
				プログラム開発 プロセス	アルゴリズムと C言語
日程	4月16日（月）	4月17日（火）	4月18日（水）	4月19日（木）	4月20日（金）
	アルゴリズムと C言語	アルゴリズムと C言語	アルゴリズムと C言語	アルゴリズムと C言語	アルゴリズムと C言語
日程	4月23日（月）	4月24日（火）	4月25日（水）	4月26日（木）	4月27日（金）
	アルゴリズムと C言語	TCP/IP ネット ワーク	Web 開発演習 （PHP&Perl）	Web 開発演習 （PHP&Perl）	RDB 入門／課題 中間レビュー
日程	5月7日（月）	5月8日（火）	5月9日（水）	5月10日（木）	5月11日（金）
	DB 操作と SQL 言語	DB 操作と SQL 言語	DB 操作と SQL 言語	予備日・課題プロ グラム総仕上げ	課題プログラム 総仕上げ・発表

行事：4月20日（金）ゲストセミナーⅡ（品質意識）

訓練科名：IT 技術基盤Ⅱ（応用コース）（17日間）

日程				4月12日（木）	4月13日（金）
				プログラム開発 プロセス	UNIXの基礎
日程	4月16日（月）	4月17日（火）	4月18日（水）	4月19日（木）	4月20日（金）
	アルゴリズムと C言語	アルゴリズムと C言語	アルゴリズムと C言語	アルゴリズムと C言語	アルゴリズムと C言語
日程	4月23日（月）	4月24日（火）	4月25日（水）	4月26日（木）	4月27日（金）
	Web 開発演習 (PHP)	Web 開発演習 (PHP)	課題プログラム 中間レビュー	RDBとSQL言 語	データベース設 計

日程	5月7日（月）	5月8日（火）	5月9日（水）	5月10日（木）	5月11日（金）
	データベース開 発	Web/DB連携プ ログラム	予備日・課題プロ グラム総仕上げ	課題プログラム 総仕上げ	課題プログラム 発表

行事：4月20日（金）ゲストセミナーⅡ（品質意識）

訓練科名：オブジェクト指向開発Ⅰ、Ⅱ（15日間）

日程	5月14日（月）	5月15日（火）	5月16日（水）	5月17日（木）	5月18日（金）
	オブジェクト指 向分析設計	オブジェクト指 向分析設計	オブジェクト指 向分析設計	ソフトウェア設計	ソフトウェア設計
日程	5月21日（月）	5月22日（火）	5月23日（水）	5月24日（木）	5月25日（金）
	ソフトウェア設 計	ソフトウェア設 計	課題プログラ ム・中間レビュー (クラス合同)	コンポーネント設 計(コントローラ)	コンポーネント設 計(コントローラ)
日程	5月28日（月）	5月29日（火）	5月30日（水）	5月31日（木）	6月1日（金）
	コンポーネント 設計(モデル)	コンポーネント 設計(ビュー)	コンポーネント 設計(ビュー)	課題プログラム・ 総仕上げ	課題プログラム発 表(クラス合同)

<ゲストセミナー>

ゲストセミナーⅠ 4/7（金） 16:30~17:30	「IT業界の動向と技術者に求められるもの」 MISA 理事 荒井 秀和 氏（(株)サイエンティア 代表取締役）
ゲストセミナーⅡ 4/21（金） 16:30~17:30	「ソフトウェアの品質」 バイスリープロジェクト（株） 代表取締役 菅野 直 氏
ゲストセミナーⅢ 5/19（金） 16:30~17:30	「システムエンジニアの仕事」 （株）アート・システム マネジャー 荒井勝広 氏